opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2011年12月)

エチェバリーア司教は12月の 手紙において、待降節と無原 罪の聖マリアの祭日をよく生 きることを通して、主のご降 誕を準備するよう勧めます。

## 2011/12/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

待降節が訪れました。希望を新たに するよう招かれています。それは、

数日前の日曜日、ミサの第一朗読で、選ばれた民の状態に心を痛めていたイザヤの言葉が読まれました。当時の人々は心を頑なにし、預言に彼らのしまっていたの原いました。「たち返ってください。のために。(…)どうか、天を裂いて降ってください。御前に山々が揺

れ動くように。| [ii] これからの数 週間、この叫びがいろいろな形で 度々響き渡ります。私たちもまた、 教会の声に注意深く耳を傾け、素直 な心で繰り返します。Veni, Domine, et noli tardare. Relaxa facinora plebi tuae.主よ、来てください。遅 れずに来てください。あなたの民を 担いがたい荷から解き放ってくださ い。[iii]典礼は私たちに保証しま す。「全てを治める主がすぐに来ら れる。その名はエンマヌエルと呼ば れる。」[iv] それはこう言うことで す。「救い主は来て、悪のわざと、 私たちを今も神から遠ざけているす べてのものを無力にします。そし て、私たちのかつての輝きと、父の 子であった初めの状態を回復しま す。| [v]

Veni, Domine Iesu 主イエスよ、来てください[vi]、とどれほど心の中で或いは口に出して祈り求めてきましたか。典礼がキリストの降誕に当

てはめる聖書の次の一節をじっくり 味わいましょう。「天よ、露を滴ら せよ。雲よ、正義を注げ。地が開い て、救いが実を結ぶように。| [vii] 天は、贖い主の到来のため二千年前 に開かれました。そして、それは毎 日、ご聖体の秘跡においてイエスが 私たちに近づかれるたびに繰り返さ れています。私たちを助けようと 降ってくるこの神の露に潤されるた めには、一人ひとりが心を大きく開 かなければなりません。ですから、 降誕祭でのイエス・キリストの霊的 な来臨を準備する最上の方法は、毎 日、新たな熱意でご聖体をいただく ために、心身をよい状態に整えるこ とです。待降節の日々をどのように 歩んでいますか。人類が主を迎え入 れるようにと望んでいますか。神が 受けるにふさわしい応え方を人々が するよう願うために、通りのイルミ ネーションや飾りを活用しています か。

創立者はこれからの数週間を「心の 中に、私たちの神のための馬小屋を 築く | ため活用するよう勧めておら れました。「幼い頃を思い出しませ んか。わくわくしながらコルクの山 や小さな家、そして神がお生まれに なる飼い葉桶の周りに人形を並べて いったことでしょう。」[viii] そし て、全ての信者に当てはまる考察を こう続けられました。「オプス・デイ は、神への愛ゆえに幼子になれる大 人のキリスト者のためのものです。 だから、時が経つに連れて私の娘た ちや息子たちが日増しに幼くなって いくことがよく分かります。皆が、 幼かった時よりも、より大きな喜び をもって、心の奥底に馬小屋を準備 するのです。| [ix]

私たちが記念するこの筆舌に尽くしがたい出来事を黙想する際に、教皇様は次のように考えるよう勧めておられます。「ベツレヘムの夜に始まった預言のことばの実現は、きわ

めて偉大なものであると同時に、こ の世の見方からすれば、預言者が想 像させてくれるよりもつつましいも のでした。| [x] イザヤだけでな く、全ての預言者は降誕祭の出来事 を垣間見ただけでした。あのことば の実現は、途方もなく広大で偉大な 力を秘めています。みことばが人と なられたのですから。それによって 「神と人間の限りないへだたりが乗 り越えられたのです。詩編に述べら れているとおり、神は低いところに 身をかがめられるだけではありませ ん。神はまことに『降って』来られ ました。世に入って来られました。 私たちをすべてご自分へと引き寄せ るために、私たちの一人となられま した。| [xi] 同時に、全てのことが 最も慎ましやかに繰り広げられまし た。全知全能かつ永遠の神が、生ま れたばかりの無防備な赤子として私 たちの元に来られ、人間の手によっ て守られ、心の底から愛されること を必要とされたのです。祈りの静け

私たちはまた、間近に迫った無原 の聖マリアの大祝日の準備もして大祝日の準備もして大祝日の準備をしていた。 聖母の子どもとしてものである。 となるないではいます。 では、地上に出るしたではいるがはいるがです。 はいるからでするがはないである。 に聖なる方であられます。 にとするな尊厳を、キリスト者は、

聖ホセマリアがロザリオの神秘についての考察を記したことが思い出さいます。それは1931年の今頃のことが思いたが、もう80年が過ぎましたが、数知れない人々が観想の。このを助けてきました。にの時季、この聖母信心をより丁ださる時、質問に答えて創立されました。「ロザリオ

は、何世紀も前からカトリック信者 の生活に根付いる、聖す。の生活にお喜びになるがご生涯するがで生涯でありませいではます。ののはませいではませい。ことでももたととであるたととであるない。そうではないますではいますがあるというではまでいますがある。」をもいるようなにはないのはです。」「xiii」

人々の自由をどこまでも重んじた創立者は、他の信心と同じようがよりにおいても各自しままがい方でするです。こうがい方でするで、こうがい方を勧けれるが、という意味ではありません。 様々な折りにようなものとは言ってはいる。 人間は皆同じようなものとは言って も、それぞれに固有の道がありります。 も、ロザリオや他の全いい教想でいい、教想ではいいでがすがありたがあります。 もしていい教想を少の落ちしたがありますがありますがありますがありますがありますがありますがありますがある。 は、、、と神のでは、、、と神ののものですから。」 「xiv」

待降節の間、ロザリオの喜びの神秘が生き生きと思い起こされます。何よりも典礼が降誕祭の準備を集中的に行う、待降節最後の週にはひとこれがないです。特別熱心に心を込めてこの神秘を観想しましょう。私とあなたたちに役立つはずですから、この神秘についての創立者のコメントの一つを書き写すことにします。

「喜びの神秘を思い起こしなさい。 Semetipsum exinanivit formam servi accipiensご自分を無にして、 私たちと同じ体を取り、僕の姿になられたイエスの謙遜に驚嘆しましょう。罪以外、私たちと同じ人間になられたのです。何という謙遜でしょう。人々と同じだけの時間を御母のご胎内で過ごされました。

御母を眺めてみましょう。遜って従姉の聖エリザベットを見舞うため山地のユダヤに向かわれます。見つめましょう…、そしてマグニフィカットの場面に感嘆しましょう。

その後、イエスがお生まれになります。私たちと同じように。しかし、 極度の貧しさの内に、しかも家の外 の片隅でお生まれになります。Non erat eis locus in

diversorio 宿屋に場所がなかったのです。ダビデ王の家系でありながら、主は貧しさの中に生まれ、貧し

続いて、清めの式に与るため神殿に 上る聖母を見ます。神以外に彼女に 勝る人はいないほどの、最も清い方 であられるのに、清めを受けられる のです。何という謙遜の鑑!それに 比べて私たちは、高慢で膨れ上がっ ています…。

謙遜を示すこのような場面に続いて、最後に、神の事柄に従事するための寛大さで私たちの心を満たす場面が現れます。三日間も探し続けた末、神殿で見つかった御子は、私が

天の御父の事柄に携わるべきことを 知らないのですか、と言われまし た。これが最後の神秘のテーマで す。| [xv]

無原罪の聖母への九日間の祈りは聖 母への子どもとしての愛情を示すも のです。しかし、「私たちが聖母に お捧げするものよりも、聖母から頂 くもののほうがずっと重要である| ことを忘れてはなりません。「事 実、聖母は私たち一人ひとりに当て てメッセージを送ってくださいます (…)。ところでマリアは私たちに なんと言っておられますか。ご胎内 で人となられた神のみことばで、私 たちにお話しになります。そのメッ セージとはご自分の命そのものであ るイエス以外の何ものでもありませ ん。主に感謝します。主によってマ リアは無原罪なのです。そして、神 の御子が私たちのために人となられ ました。御母マリアもまた、私たち 皆のために、一人ひとりのための神 の救いの予告として、罪から守られ ました。」[xvi]

こうして無原罪の聖母への九日間の 祈りを個人的に熱心に実行するな ら、降誕祭の良い準備になります。 さらに、経験から十分に分かること ですが、継続的な個人の使徒職の機 会ともなります。聖母は常に人々を 魅了しイエスに導いてくださいま す。聖母との付き合いと使徒職への 熱意という二つの側面を、今、そし て一生の間しっかりと一致させるよ うに努めましょう。ここで特別な力 に満ちた創立者の言葉を考察し、 日々の応え方を見直すことにしま しょう。「世界は渇ききった口のよ うです。キリストを渇望しているの です。私たちキリスト者はその渇き を癒すべき水なのです。世界は私た ちを待っています。明日あなたは、 キリストの熱と愛を伝えるためにど こにいるのでしょうか。今、使徒獲 得を渇望していないなら、悪い兆候 です。私たちは泥に過ぎませんが、師なる神の御手の内にいるならば、盲目で真理の輝きを知らない人々の目に光を注ぐことができるのです。」[xvii]

先月、スリランカにおいて、属人区 の使徒職が本格的に始まりましたさい。 神に心から感謝しましその日においる の兄弟たちが到着したそ安置する日の と変をました。アジア大陸に聖母を でするました。です。無原罪の聖母を でつばえたのです。無原罪の聖母を と進くした。 でのような使徒職の開始と進くの ところでの使徒職の開始に努めましょう。

子どもたちよ、人々が私たちを、そしてあなたを待っています。日々、カルワリオのいけにえを愛する熱望をもって過ごしましょう。スペインにおける宗教弾圧が始まってから十数ヶ月が過ぎた1937年12月3日に、

創立者のパドレは初めてきちんとき ちんと祭服を着用してミサ聖祭を捧 げることができました。アンドラの 司祭がその時にしてくれた全面的な 助けについて、心からの感謝を込め て話すのを聞いたことがあります。 創立者は毎日その司祭のために主に 祈り続けました。

教皇様とそのご意向のため、教会の 統治のための協力者の方々のため、 教皇さまの最近のアフリカ訪問の 的実りのために祈り続けてくださ い。そして、主に私が願っていることに一致することを忘れないでくだ さい。何度も言ったように、私の くの願いは、神に全ての栄光を帰す ことに向けられています。

心からの愛情を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年12月1日

[i] ベネディクト16世、2010年12月 22日一般謁見の講話。

[ii] ローマミサ典書、待降節第一主 日の第一朗読(B) (イザヤ 63,17-19)。

[iii] 待降節第一主日の聖務日課、晩 歌の応唱。

[iv] ローマミサ典書、12月21日入祭唱(イザヤ7,14; 8,10参照)。

[v] ベネディクト16世、2010年12月 22日一般謁見の講話。

[vi] 黙示録 22,20.

[vii] ローマミサ典書、待降節第四主 日入祭唱(イザヤ45,8)。

[viii] 聖ホセマリア、1973年12月25 日説教のメモ。 [ix] 同上。

[x] ベネディクト16世、2010年12月 24日主の降誕祭の説教。

[xi] 同上。

[xii] ベネディクト16世、2010年12月 22日一般謁見の講話。

[xiii] 聖ホセマリア、1972年11月17 日家族の集まりのメモ。

[xiv] 聖ホセマリア、1972年11月17 日家族の集まりのメモ。

[xv] 聖ホセマリア、1967年11月16日 家族の集まりのメモ。

[xvi] ベネディクト16世、2010年12 月8日無原罪の聖母のご像の前での 講話。

[xvii] 聖ホセマリア、1942年10月24 日説教のメモ。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-12yue/ (2025/12/15)